

氏名： 加賀美 常美代 (KAGAMI Tomiyo)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 文学博士 (東北大学) / PhD in Psychology
職名： 准教授
専門分野： 異文化間心理学 / Intercultural Psychology
URL： <http://jsl.li.ocha.ac.jp/kagami.htm>
E-mail： kagami.tomiyo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

異文化間コンフリクト / 教育価値観 / 多文化間カウンセリング / コミュニティアプローチ
intercultural conflict / educational value / multicultural counseling / Community approach

◆主要業績

総数 (7) 件

- ・加賀美常美代 コミュニティ心理学ハンドブック コミュニティ心理学会編 7章7節 異文化間問題 (2)「外国人留学生の異文化適応」762-768, (3)「外国人留学生の支援体制と連携」769-774,(4)「留学生支援としての予防的・教育的アプローチ」2007.6 775-781,
- ・加賀美常美代 留学生のメンタルヘルスと包括的支援体制 2007.10 留学交流 19 (10) ,2-5.
- ・加賀美常美代 日韓の女子大学生の国際交流意識とキャリア形成の比較：お茶の水女子大学の国際意識調査から 2008.3 人文科学研究 4号 109-125
- ・加賀美常美代・守谷智美・岩井朝乃・朴志仙・沈貞美 2007.6 「韓国における日本イメージの形成過程：描画による分析から」第28回異文化間教育学会大会発表抄録集 188-189
- ・加賀美常美代・朴志仙・守谷智美・岩井朝乃・沈貞美 2008 「韓国における小・中・高・大学生の日本イメージの形成過程一質問紙調査の分析から」韓国日本学会第76回大会論文集 95-97

◆研究内容 / Research Pursuits

1. アジア諸国の日本イメージの形成過程と規定要因
CSDの異文化間コミュニケーション・プロジェクトで、韓国、台湾の調査を行った。小学生から大学生までの日本イメージを描画の内容分析を行った。関連要因の統計的分析を行なった。
 2. コミュニティアプローチによる留学生支援
コミュニティ心理学会編による『コミュニティ心理学ハンドブック』の異文化間関連を担当した。留学生の危機と介入、予防的教育的アプローチ、連携についての実践成果とコミュニティアプローチによる理論的枠組みを示した。
 3. 日韓の新入女子大学生の国際交流意識調査
日韓の新入女子大学生の国際意識調査からグローバル社会における国際交流態度、多文化理解態度、キャリア意識を比較し検討した。
1. Perceptions of Japan in Asia : an analysis of images.
The objective of this study is to investigate how Korean and Taiwanese children form their images of Japan by using qualitative and quantitative research on Intercultural Project of CSD.
 2. Support for foreign students by community approach
"The Handbook of Community Psychology" (University of Tokyo Press) was published. In this book, I showed the methods of our intervention in foreign students' crisis, preventive and educational approach, and cooperation in the community approach. In addition, I also explained the theoretical framework of them.
 3. Research of freshperson' s consciousness of international exchange in Japan and Korea
I conducted the research of freshperson' s consciousness of international exchange and investigated the effects of global education, multicultural attitudes and career consciousness in Ochanomizu University and in four women universities in Korea.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の「多文化間交流論」は、参加型授業、協働的グループ活動を行った。留学生と日本人学生の交流、コミュニケーション・スキルの向上を目指した。「多文化共生論」は、4名のゲストスピーカーを招き多文化共生社会の理解とグループ討論を行なった。「文化と人間関係Ⅰ」では、文化行動と心理学的理論をゼミナール形式で行った。

「学校カウンセリング(教職)」では、コミュニティアプローチによる心理教育的援助の講義のほか、スクールカウンセラー、組織カウンセラー、帰国生担当教員、養護教員をゲストスピーカーとして招聘した。

大学院の「多文化間心理教育学特論」では、文化と心理学の理論と研究方法について文献講読を通して講義を進めた。「多文化間心理教育学演習」では、多文化間カウンセリング、積極的傾聴、予防的支援活動の方法のスキル向上を目指した。

I delivered lectures of “Multicultural communications and exchange” and “Coexistence in Multicultural society” for undergraduates. In these lectures, I adopted the methods of cooperative group work. I aimed at their improving of foreign and Japanese students’ communication skill in the former, and, in the latter, I invited guest speakers in order for them to improve multicultural understanding and diversity. In “Culture and Human relationship I” for undergraduates, I delivered lectures on cultural behavior and social psychology.

In “School Counseling” for undergraduates, in addition to my lecture on psychological support by community approach, I invited school counselor, organization counselor, teacher of returnee students and nurse-teacher as guest speakers.

For graduates, I taught “Intercultural Psychology and Education”. In this lecture, I put emphasis on methodology of intercultural communication research. In “Seminar in Intercultural Psychology and Education”, I aimed at their improving skill of multicultural counseling, active listening and preventive support activity.

◆研究計画

- ・多文化間の教育に関わる人々、多様な国籍の人々を対象に、葛藤解決方略と教育価値観、一般的価値観の関連を比較検討するとともに、教育価値観尺度の有効性について検討していきたい。
- ・アジア諸国の対日イメージ形成過程とコンフリクト解決プログラムの開発を検討していきたい。

◆メッセージ

多様な文化的背景をもつ人々は、日常生活で遭遇する異文化体験から様々な葛藤やストレスを抱えています。そのような時、周囲にいる人々は彼らをどのように理解し、関わっていったらよいでしょうか。

コミュニティにおける多様性の意味や隣人として共に生きることはどのようなことか、一緒に考えていきたいと思います。